

令和2年度補助金評価表（令和元年度交付分）

事務事業名	自主研究グループ助成金		
担当所属	総務課	連絡先	092-332-2100

【事務事業基本情報】

区分	②奨励・支援的事業補助		
該当規程等	糸島市自主研究グループ助成規程		
基本目標	基本目標6__経営感覚を持った持続可能なまちづくり		
	政策	政策1__行財政改革の推進	
	施策	施策①__市民満足度を重視した行政サービスを提供する	
補助期間	令和2年度	まで	

【事業概要・指標】

事業概要	成果指標
<p>【目的】</p> <p>自主的に政策等の調査研究を行う職員のグループの活動を助成することにより、職員相互の自己啓発意欲の高揚と研究風土の醸成を図るとともに、その成果を市行政の推進に反映させる。</p> <p>市民ニーズや地域課題を的確に把握し対応するには、政策等の企画立案能力が必要であり、自主的に調査研究を行うことでその能力向上が期待され、職員の能力向上により市民満足度が高い行政サービスの提供につながる。</p> <p>【対象事業】</p> <p>市の行政事務運営の効率化に関する事項、市行政の推進に関し参考になる事項、市が実施すべき新たな施策に関する事項、市長が定める事項などの調査研究</p> <p>【対象者】</p> <p>調査研究を行うために自主的に結成された3人以上の職員のグループ</p>	<p>① 自主研究グループ数（単年度）</p> <p>② 市行政に活用された研究成果数（単年度）</p>

【改革案】

今後の実施方向性	現状維持
R2年度に助成対象グループの上限を2グループに減らしている。意欲のある職員の研究活動の助成制度は必要であると考えため、現状維持とする。	

【指標の推移】

	単位	H31年度実績	目標値
成果指標	① グループ	1	3
	② 事業	0	1

【投入コスト・人員】

年度	単位	令和元年度決算	令和2年度予算
トータルコスト	円	39,809	300,000

【環境変化等】

開始時の周辺環境・課題
現状の周辺環境・課題
<p>職員数が減少していく中、多様化した市民ニーズに対応し、質の高い行政サービスを提供するためにはひとりひとりの職員の能力を上げる必要がある。</p> <p>近年、グループ数が少なくなっているのが課題だが、職員数削減や災害対応、制度改正などによる業務量増加により、自主研究を行う余裕が少なくなっているのが、応募数が少なくなった要因と考える。</p>
今後の予想される周辺環境・課題
<p>少子高齢化、人口減少等の大きな社会問題やICTの発達等により、自治体が解決すべき地域課題、職員が果たすべき役割が変化していく可能性がある。</p>
市民及び議会等の意向・ニーズの変化等
<p>社会情勢により変化していく役割に対して、ひとりひとりの職員が対応し、調査研究活動を行い、市民満足度を維持していく必要がある。</p>